

Book Browsing

話題の新刊紹介

『病気になることもいっぱい遊びたい』 坂上和子 あげび書房 一六〇〇円

著者はこの十七年間、おもちゃ、楽器、手芸、工作、ゲームなどを小児病棟に運んでともに遊ぶ

子供



「遊びのボランティア」として活動してきた。この本はその記録だ。子どもにとって遊ぶことと生きることが同義語。入院中や手術の直後とい

つた、大人ならうちの子は遊べるような状況でも、子どもは遊びたい。一人ひとりの子どもたちの名前を引用には、そんな子どもたちの歓声が潜んでいる。小児がんと中途失明と闘ったかな

のちゃん(八歳)も、病室で、クリーンルームで、ICUのなかでも、むさぼるように遊んだ。すくすく発育する生命の強さと輝きに接して、学生ボランティアも成長していく。そして闘いの末に力尽きた子どもたちとの別れ。その悲しみを記す終章「グリーフケア」でも、子どもたちの笑顔が、残された者の生きる支えとなっている様子が描かれる。(森山恵美)